

< あなたの治療について >

血内-G-CVP-q3w (初回)










今回の治療は、G-CVP という治療法で、ガザイバ (G) とエンドキサン (CPM) とオンコピン (VCR) という 4 種類の注射薬とプレドニゾン (PSL) という内服薬を併用して行います。ガザイバ、エンドキサン、オンコピンは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。プレドニゾン (PSL) は副腎皮質ステロイドですが抗腫瘍効果があり、また、前記の薬と併用して治療を手助けする大事な役目をはたしています。4 つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。1、2、8、15日目に点滴を行い、2日目の点滴の日から5日間に渡って内服薬(プレドニゾン)を服用します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~6日目	7~21日目
プレドニゾン (ステロイド) 100mg/body	内服	お休み		お休み

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2日目	3~7日目	8日目	9~14日目	15日目	16~21日目	
	アセトアミノフェン レスタミン (熱・アレルギーを抑える薬)	内服		お休み	お休み		お休み		お休み	
	ガザイバ (抗がん剤) 1000mg/body	点滴 約12.5mL/時 2回目以降 約25mL/時								
	グラニセトロン (吐き気止め)	点滴 約30分	お休み			お休み		お休み		お休み
	オンコピン (抗がん剤) 1.4mg/m ²	点滴 約15分								
	エンドキサン (抗がん剤) 750mg/m ²	点滴 約30分								

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

ガザイバとエンドキサンとオンコピンとプレドニゾンについて

特徴的な副作用について

ガザイバにおける

infusion reaction

「発熱、悪寒、悪心、頭痛、疼痛、そう痒、発疹、咳、虚脱感、血管浮腫」などの症状

- * 血圧や脈拍などをモニターにて確認しながら点滴しますが、異常を感じた時はすぐに知らせてください。また、発熱、悪寒、頭痛等を軽減させるために、本剤投与の 30 分前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤等を服用します。

エンドキサンにおける

出血性膀胱炎

「排尿時に痛みがある、尿が残っている感じがする、尿の回数が増える、尿が赤みを帯びる」などの症状

- * 出血性膀胱炎の予防として、水分を十分に摂り、排尿に心がけてください。

オンコピンにおける

末梢神経障害及び筋障害

「手足のしびれ感、灼熱感、痛み：物がつかみづらい、歩行時につまづくことが多い」などの症状

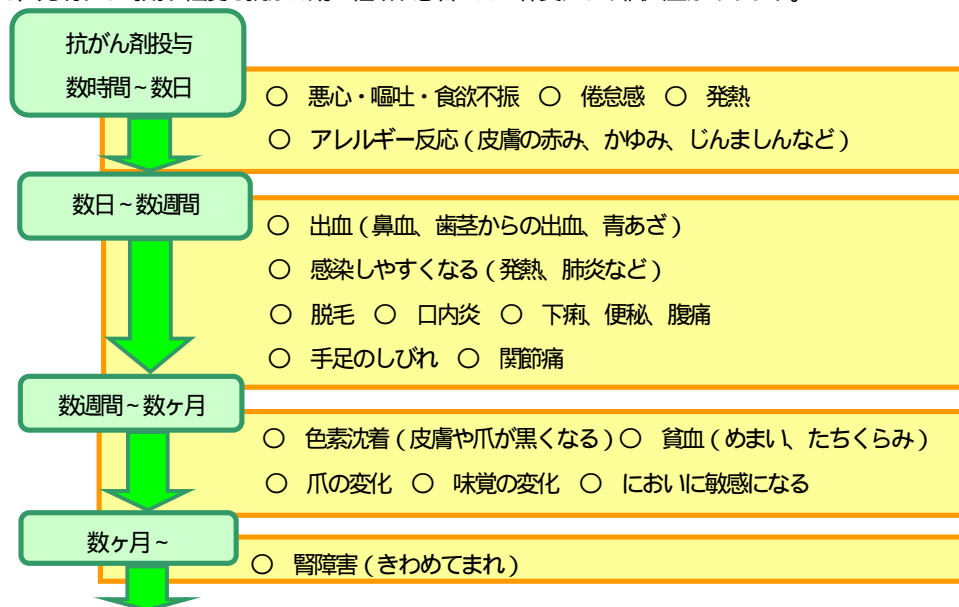
- * しびれがひどくなり、生活上の支障が出てきたときは必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。
- * 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



薬品毎の副作用について (添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋)

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【ガザイバ】

<infusion reaction>呼吸困難、意識障害、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、さむけ、おう吐、咳、めまい、動悸

<腫瘍崩壊症候群>意識の低下、考えがまとまらない、判断力の低下、尿量が減る、息苦しい、息切れ

<好中球減少、白血球減少>発熱、のどの痛み

<血小板減少>鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい

<感染症>かぜのような症状、からだがだるい、発熱、おう吐

<B型肝炎ウイルスによる劇症肝炎、肝炎の増悪>からだがだるい、発熱、意識の低下、考えがまとまらない、頭痛、白目が黄色くなる、吐き気、おう吐、食欲不振、羽ばたくような手のふるえ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、判断力の低下、意識がなくなる

<進行性多巣性白質脳症(PML)>意識がなくなる、しゃべりにくい、物忘れ、手足のまひ、考えがまとまらない、見えにくい

<心障害>めまい、胸がドキドキする、胸の痛み、気を失う、動くときの動悸、冷や汗、胸がしめつけられる感じ、胸が押しつぶされるような感じ、胸を強く押さえつけられた感じ、狭心痛、息苦しい、からだがだるい、全身のむくみ、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息切れ

<消化管穿孔>吐き気、おう吐、激しい腹痛

<間質性肺疾患>発熱、から咳、息苦しい、息切れ

【エンドキサン】

<心毒性>胸痛、息が苦しい、脈が乱れる、動悸

<ショック・アナフィラキシー様症状>寒気、吐き気がする、動悸、息が苦しい、発しん、かゆみ

<骨髄抑制>発熱、寒気がする、のどが痛む

<出血性膀胱炎、排尿障害>排尿時に痛みがある、尿が残っている感じがする、尿が赤みを帯びる

<イレウス、胃腸出血>激しい腹痛、お腹がはる感じ、便秘、吐き気がする、発熱、冷汗、血を吐く、便に血が混じる(黒い便ができる)

<間質性肺炎・肺線維症>発熱、咳が出る、息が苦しい

<心筋障害、心不全>胸痛、息が苦しい、脈が乱れる、動悸、疲れやすい、足がむくむ

<抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)>頭痛、嘔吐、めまい、全身のだるさ

<皮膚粘膜剥離症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell症候群)>発熱、皮膚が赤くなる、皮膚や粘膜の水ぶくれ、全身の皮膚がひどく痛い

【オンコピン】

<末梢神経障害>四肢のしびれ、痛み、感覚鈍麻、運動障害、味覚鈍麻・消失。

<骨髄抑制>貧血症状、発熱、出血傾向。

<錯乱、昏睡>考えがまとまらない、時間、場所などが判らない、意識が完全に消失した状態。

<イレウス>排便の停止、腹痛、腹部膨満感、食欲不振、吐き気。

<消化管出血、消化管穿孔>激しい腹痛、吐血、下血、黒色便、吐き気、吐く。

<SIADH>全身倦怠感、頻尿、のどの渇き。

<アナフィラキシー様症状>呼吸をしにくい、じんましん、ふらふら感、冷汗、動悸、息切れ。

<心筋虚血>胸の痛み、圧迫感、狭窄感、冷汗。

<脳梗塞>突然認める片側の手足や顔の麻痺、しびれ、頭痛、言語障害、視力障害、意識障害。

<難聴>声や音がきこえない。

<呼吸困難及び気管支けいれん>呼吸をしにくい、発作的な息切れ、喘鳴(ヒューヒュー音)。

<間質性肺炎>発熱、から咳、呼吸をしにくい、頭痛、全身倦怠感。

<肝機能障害、黄疸>全身倦怠感、食欲不振、吐き気、吐く、皮膚や結膜などが黄色くなる。

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。